

海を
見ながら…

2019 8/27(火)→12/22(日)

開館時間=10時—17時

休館日=月曜日 (祝日にあたる場合は開館し、翌日休館)

入館料=一般/400円 (350円)

65歳以上/250円 (200円)

小・中・高校生/200円 (150円)

※横浜みなと博物館常設展示室も見学できます。※()は団体割引 [20名以上]

※毎週土曜日は小・中・高校生100円の特別料金になります。※企画展等は別料金になる場合があります。

※帆船日本丸は12月から修繕工事を実施する予定です。工事期間中は帆船日本丸の船内見学はできません。

工事期間は変更になる場合がありますので、横浜みなと博物館ホームページをご確認ください。



横浜みなと博物館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1

帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体

TEL 045-221-0280 (代表) FAX 045-221-0277 <https://www.nippon-maru.or.jp/>



MANHATTAN
1996(平成8)年 リトグラフ

カクテルグラスと酒瓶越しに当時活躍した邦船3隻を眺める。手前からにっぽん丸、飛鳥、おせあにっぽくぐれいす



ROYAL VIKING STAR
1983(昭和58)年 水彩

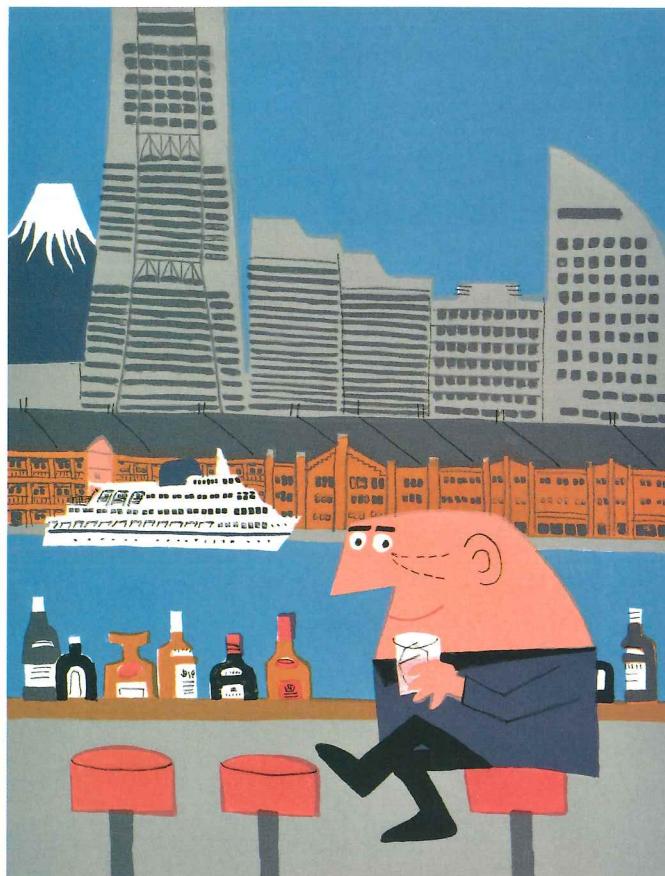
客船ロイヤル・バイキング・スターの甲板から海を見る。この年、柳原は同船の香港～シンガポールクルーズに乗船した



洋上でくつろぐ(仮題)

1970年代～80年代 切絵

洋上でグラスを傾けながらくつろぐ。人物は柳原本人か。のんびりとした雰囲気の作品



みなとみらい 2010(平成22)年 リトグラフ

みなとみらい21地区を臨むバーでグラスを傾けるのは柳原本人か。
船はレストラン船ロイヤルウイング



船で行く(仮題)

1990年代～2000年代 切絵

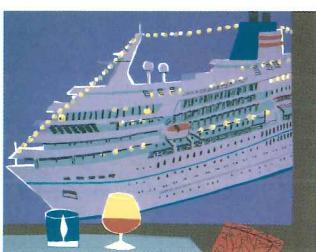
洋行の途上、オープンデッキで海上を飛ぶアルバトロス(あほうどり)を眺める。白いスーツの正装が船旅の格調高さを物語る



夜の甲板

1989(平成元)年 リトグラフ

客船のデッキから星空を見上げるドレスアップした男女を後方から描く。柳原は1986(昭和61)年から本格的にリトグラフを始めた



ASUKA

1990(平成2)年 リトグラフ

夜に入港するクルーズ客船飛鳥を窓越しに眺める。テーブルの上のプランデーグラスと蝋燭が目を引く



夕照

2000(平成12)年 リトグラフ

暮れていく夕日を見ながら酒を楽しむ。夜になる間際の紫色の空と濃い陰影が印象的な作品



バルコニー

2008(平成20)年 リトグラフ

バルコニーでワインを楽しむ。背景の船は客船
飛鳥II



サンセット

2008(平成20)年 リトグラフ

夕暮れの中の客船にっぽん丸を眺める。海は瀬戸内海か



エーゲ海

2012(平成24)年 リトグラフ

白い壁と青い屋根の風景で有名なギリシャのサントリニ島から客船にっぽん丸を見る

柳原良平は船と酒、

そして船旅をこよなく愛していました。

海の側で、船上で、

時にはバーで海を見ながらくつろぎ、

その心地よさを作品にしました。

どの作品からもリラックスした、

心穏やかな時間が感じられます。

本展示では、リトグラフと切絵を中心に、

海を見ながら過ごす風景の

作品を紹介します

柳原良平アートミュージアム [特集展示]

海を見ながら…

次の柳原良平アートミュージアム特集展示

特集展示

十二支と宝船

2020年1月1日[水・祝]～3月22日[日]

絵本『十二支のしんねんかい』原画を中心に、
お正月に合わせた華やかでおめでたい
作品を展示します。

特集展示「十二支と宝船」関連イベント

2020開運七福神スタンプラリー

in柳原良平アートミュージアム

2020年1月1日[水・祝]～1月13日[月・祝]

次の横浜みなと博物館の展覧会

企画展

港・ヨコハマの1980年代

11月2日[土]～2020年1月13日[月・祝]

1980年代の横浜港に起きた変化と
市民の関わりについて紹介します。



●JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車徒歩5分
●みなとみらい線みなとみらい駅、馬車道駅下車徒歩5分

横浜みなと博物館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
TEL 045-221-0280(代表) FAX 045-221-0277
<https://www.nippon-maru.or.jp/>